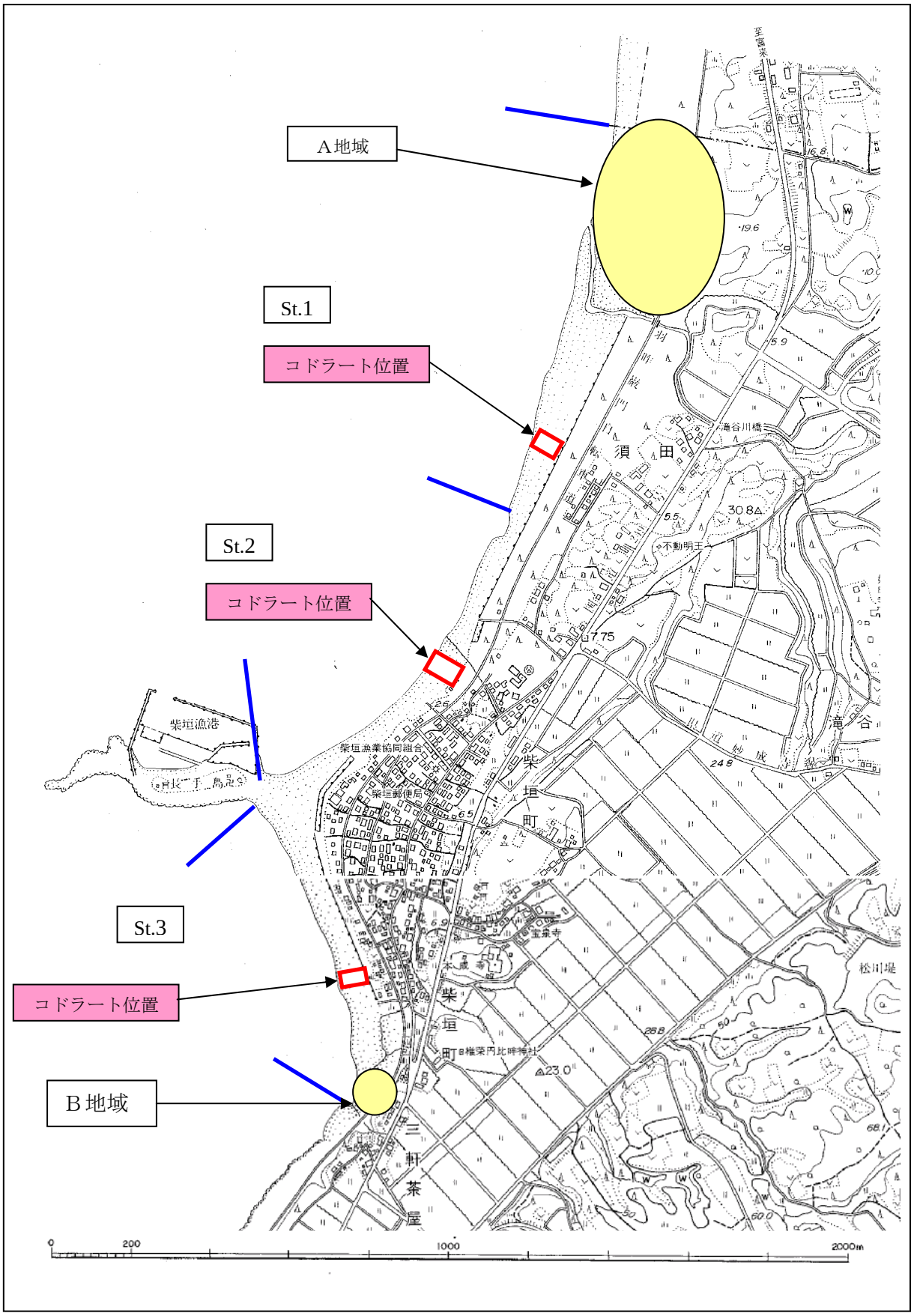

図 22　St.1～3 の調査地点の状況

(4)St.4（奥行き 45m×海岸長 1,000m）

計画	・人数と日数：作業員 50 名×0.5 日 ・テーマ：海岸線が長い海岸での人力による作業効率を検討する。
結果	・作業員 29 名 0.5 日（のべ 14.5 人日）で対応した。 ・ゴミは多くないが、砂浜が広い。 ・優先作業範囲から南下し、St.5 のまで実施した。 ・チェーンソーで切断し、手でトラックの荷台につめる流木は処理済み。
課題	・ビーチクリーナによる効率化を検討する。

作業風景	作業風景
回収物（可燃ゴミ）	回収物（粗大ゴミ）

図 23　St.4 の状況写真

(5)St.5（奥行き 35m×海岸長 1,300m）

計画	・人数と日数：作業員 50 名×0.5 日 ・テーマ：海岸線が長い海岸での人力による作業効率を検討する。
結果	・作業員 49 名 1 日（のべ 48.5 人日）で対応した。 ・河口域から開始し、休暇村前で午前中終了。思ったよりゴミが多く、時間がかかった。午後は、休暇村前から開始し、優先作業範囲を終了し、St.4 の境界まで終了。半日の予定が 1 日となった。 ・チェーンソーで切断し、手でトラックの荷台につめる流木は処理済み。
課題	・ビーチクリーナによる効率化を検討する。

作業風景

作業風景

河口域の回収物（粗大ゴミ）

回収物

図 24　St.5 の状況写真

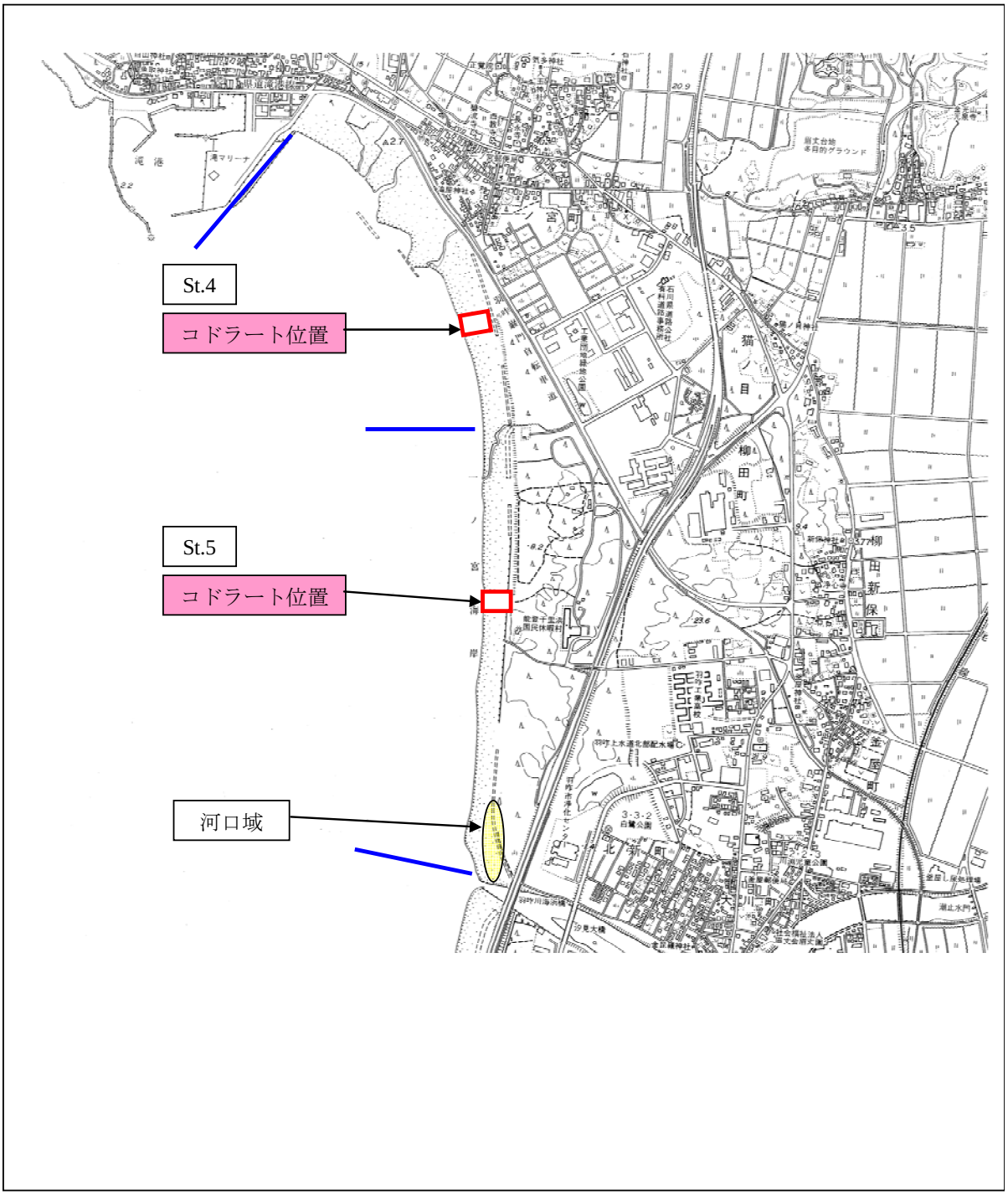

図 25　St.4、5 の調査地点の状況

4.2.3 環境講座等の状況

地域レベルの清掃活動の体制・枠組作りや、清掃員の募集に当たっても、参加者の意識の啓発や高揚が不可欠であるため、第２回のクリーンアップ調査において、清掃活動に参加する学生、地域住民、漁業者に対して、環境講座や地域交流会を開催し、最後にアンケート調査を実施して、その効果を把握した。

実施した環境講座等の概要（図 26 の写真）は、次のとおりである。

・事前説明：12 月 8 日（土）の作業開始前に、漂着ゴミの概要、生物への被害、問題点や前回調査結果の概要を説明し、この後のゴミ回収作業に対する意識を高めた。

・環境講座（1）と地域交流会：8 日（土）の昼食後に、地域交流会を実施した。その後、川井委員による「ゴミのひとしぼり運動」の講演会を開催した。この運動によって、環境への負荷や行政の負担が軽減されるというお話を伺った。

・環境講座（2）：8 日（土）の夕食後、国立能登青少年交流の家に宿泊する学生を主体として、交流の家の講師を迎えて、交流の家の環境活動について講演会を開催した。池田座長の関わったプログラムの紹介やゴミが分解されるまでの時間などの講演がなされた。

・環境講座（3）と地域交流会：9 日（日）午前中にゴミ回収作業を終了し、昼食後に地域交流会を実施した。その後、JANUS の北村が、「海洋汚染・ゴミと生物多様性」、「最新 DNA 分析状況」について話した。

また、終了後に実施したアンケート調査（表 8）でも、「環境講座については判りやすく、テーマについても関心があり、地域交流会は楽しかった」との集計結果であった。また、「海岸への漂着ゴミが多いことが分かり、清掃活動を通じてゴミへの関心が高まり、自分の日常の生活でも気を付けたい。海岸がきれいになり、社会貢献ができ、胸がすっきりした。また参加したい」とのコメントがあった。単なるゴミの回収作業だけでなく、情報提供が重要であって、これらが好評であったことが伺われた。